



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2005.02.01 No. 28 - 20

発行:日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会

〒144-0043
東京都大田区羽田5-11-4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274

AUTO - ATIS調整状況の見学

In セントレア (新中部空港)

日乗連と安全会議では、今回、新中部空港開港準備中でのAUTO - ATISの調整作業を見学する機会があり、1月27日に見学を実施しましたので報告します。

(経緯)

安全会議の要請書に「ATISの改善」の項目(別注)があり、交渉経緯と名古屋支部の関係から実現したものです。

(当日の移動状況)

名鉄名古屋駅から、現在は常滑駅での乗り換え(空港まで延長済み)で中部空港駅まで、1時間に2本の急行で乗車時間約50分(開港後は約30分の特急が設定)で、これに切符購入や発車時間待ち等の必要時間を加えると、1時間以上の時間が必要な行程でした。

当日は新幹線で東京からの移動での乗り継ぎで、組合での行動で比較的持ち物が少なかったのですが、これが乗務でステイバッグを所持しての移動では、「乗り換え作業等でかなり大変だな」と思える状況でした。

(新空港での見学報告)

この日は、主目的のAUTO - ATIS以外に、管制関連で「レーダー室」と「管制塔」を見学する機会を得ました。

1、レーダー室

- * 既に1月20日から「セントレアアプローチ」に移行されて運用されていることは、ご存知のとおりで、実運用中でした。
- * 既にAIPでも公示がある様に、画面上でセントレアと現名古屋関連空域が区別されていて、管制担当もそれぞれに分かれていて、説明では「既に体制は出来ていて、開港後の運用も問題ない」との説明でした。
- * 機器は新しく、液晶画面であり、比較的明るい室内での管制でした。

2、管制塔

- * まだ滑走路に×マークがあり、実運航が始まっていないので、ゆっくりと空港の全容を見せてもらいました。
- * 全体の感じを簡単に説明すると、ANA関連の人には、羽田の東側エプロン、JAL関連の人には那覇空港のエプロンを少し大きくした感じといったものでした。
- * PBBにはTAXIWAYから入り込んでALIGNするもので、広めのエプロンの真ん



中に照明灯が設置されていて、この支柱が近く感じるかなと言った感もありました。

3、 本来のAUTO - ATIS調整の見学

(説明された事項)

- * 基本のデータベースは米国製のものであり、全国共通である。
- * 米国製発音ソフトであることから、日本の地名等の発音に若干の違和感があるケースがあり、これらに関しては各空港での調整が可能である。
- * ATISの送信は、時間は1分を超えないこと等の制約もある。
- * 速度の調整に関しては、全体を一括、及び、各単語は可能だが、ATIS内での各文章(例、NOTAMやRMKS)単位での調整は、(多分)不可能。
- * 発出時間に関しては、気象庁からのデータが届き次第、直ちに送信開始しているので、00や30分丁度の開始に関しては、気象庁側の観測体制次第。

(こちらからの依頼)

- * 気象関連項目は複雑でも、それなりに聞き取れるケースが多いが、NOTAMやRMKSが聞き取り難いことがあり、この部分だけ調整を検討してほしい。
- * CAT、でのSSP体制に関する情報を出してほしい。

この件に関しては「SSP体制が取れないときは、情報提供となっているので、通常は気象状況により必要な時は、体制が取れているとして報じていなかった。」

「確認情報として有効であるとの意見は、今、聞いたので、全体での会議等の機会に、意見に対する対応が可能か討議してみます。」

との答えがありました。

(全体的な話)

- * 自動音声によるATISの送信に関して、製造国、ソフトの更新や、空港ごとの調整状況がわかった。
- * ATISの項目で、聞き取りにくい用語があった時、会社経由や、組合経由でのフィードバックがあれば改善可能であることも判明しました。

(別注) 安全会議要請書、「空港」項目での、ATIS、ACARSについて

1. ATISの切り替えは必要に応じ気象庁等とも調整し、全国で統一された時間に遅滞なく行う事。
2. ATISにSSP体制の開始・終了を盛り込む事。
3. 正しく聞き取りやすいATISを流す事。
4. ACARSの送受信ができない、または時間を要する地域の解消を図る事。

(見学を終了して)

- * 自動音声に関する改善が可能なが判明しましたので、今後も改善のための、声・意見の集約も考えていきたいと思えます。
- * 運航支援の現場で、機器や運用を直接観察し、運航・支援側の意見交換ができたことは、今後に活かしていけるものであったと思えます。